

第36回日本ハンドセラピィ学会学術集会のお知らせ

手に関わるセラピストにとって手の機能解剖は欠かせません。今回の学術集会では、手のバイオメカニクスの世界の権威でいらっしゃる Kai-Nan An 先生 (Mayo Clinic) にご講演いただきます。また、手は第2の脳と言われ、脳と密接な関係にあるので、神経生理学的なアプローチが重要です。そこで、神経生理学的アプローチをご専門にされている 兒玉隆之先生 (京都橘大学) にニューロハンドセラピィと銘打ってご講演いただきます。さらには、疾患に関わらず手は生活する上では欠かせないため、多角的な視点を持てるよう、脳卒中上肢麻痺に対する作業療法のトッランナーである 竹林崇先生 (大阪公立大学) とハンドセラピィで生活に焦点を当てている 飯塚先生 (奈良学園大学) にご講演いただき、「生活する手」を再考して頂きます。そのほか、錚々たる先生方にご登壇いただけます！

第36回日本ハンドセラピィ学会学術集会 プログラム一覧



特別講演

手外科領域における私たちの取り組み

金沢大学 保健学類 作業療法学専攻 多田 薫先生

海外招待講演 (同時通訳あり)

“Is the Biomechanics in your toolbox?”

Biomechanics Laboratory Division of Orthopedic Research Mayo Clinic

Kai-Nan An 先生

教育講演 I

未来を形づくる：ニューロ・ハンドセラピィの挑戦

京都橘大学大学院 健康科学研究科 兒玉 隆之 先生

教育講演 II

私が大学院で学んだこと —臨床疑問を基礎研究で追求する—

札幌徳洲会病院 整形外科外傷センター 井部 光滋 先生

シンポジウム I 知と技の融合

1. 筋再教育訓練に対するエビデンス構築に向けた基礎研究

一般財団法人 新潟手の外科研究所 塩田 紀之 先生

2. 臨床疑問からの学び —上肢・手指切断者の研究と還元から得たこと—

川崎医療福祉大学 作業療学科 吉村 学 先生

3. 大学院を経て得られる経験 —問題解決能力と主体性の学び—

中部大学大学院 生命健康科学研究科 古田 裕之 先生

4. 私が大学院へ進学した動機と研究について—橈骨遠位端骨折の転倒予防を考える—

名古屋掖済会病院 リハビリテーション科 稲垣 慶之 先生

1. 脳卒中後上肢運動障害に対する生活で手を使うための試み

大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 竹林 崇 先生

2. 手の外傷によって生じる身体への可塑的变化とその対応

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 飯塚照史 先生

運動器エコーセミナー

運動器エコーの基礎と研究・臨床における活用

関西医科大学 リハビリテーション学部 福元喜啓 先生

表面筋電図セミナー

表面筋電図の基本と研究応用—計測法から string navigation, 筋シナジーまで—

広島大学大学院 医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 車谷 洋 先生

日本物理療法学会共同企画 物理療法セミナー

ハンドセラピーにおける物理療法の活用

西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中村潤二 先生

実践セミナー ～ 実践知を高める ～

1. 深指屈筋の機能解剖と臨床応用

一般財団法人 新潟手の外科研究所 小田桐正博 先生

2. 拘縮に対するハンドセラピー

八尾市立病院 リハビリテーション科 吉村加織 先生

3. 橈骨遠位端骨折における画像所見と運動の考え方

愛野記念病院 手外科センター 油井栄樹 先生

4. 手関節尺側部痛の評価と対処方法

山口県済生会下関総合病院 リハビリテーション科 梶田芳徳 先生

5. 根拠に基づいたスプリントの導入

相模原協同病院 リハビリテーション室 成田大地 先生

6. 整形外科医・手外科医との連携の構築に向けて

岐阜県総合医療センター 中央リハビリテーション部 内屋 純 先生

そのほか、日本ハンドセラピー学会委員会企画、優秀演題賞候補演題セッション、Best poster award セッション、一般演題（口述、ポスター）など多数のプログラムを企画しております！